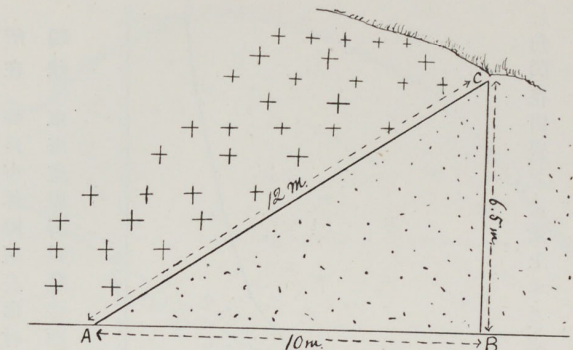


現狀 東海道線神戸驛の西北約四軒、神有電車鷹取道驛の西約三五〇米、檜川の沿岸長梭橋の西



第廿六圖 檜川上斷層側面圖

A-C斷層線、+印の部角閃花崗岩、點印部粘土、砂岩、礫岩、褐炭等の互層

に位する。檜川の北方より流れ來つて急に東方に彎曲する處の斷崖に露出するものにして佐藤茂樹君の發見にかゝる。川の水際より約五〇度の傾斜をなして二九米の斷崖を斜に上昇し斷層線の長さ三二米餘に達し、一五米邊までは此の傾斜をなして明かに目撃し得るが之より以上は稍々不明瞭となり頂上にては七〇度以上の急勾配をなしてゐる。第三紀層は礫岩砂岩及粘土よりなり之を衝上せる角閃花崗岩の下部斷層線に沿ひこもちしたがよく發育する。層面の走向は南北五五度乃至七五度東へ傾斜する。

(第廿五圖)

(五) 檜川上斷層

所在 神戸市林田區長田村字口一里山一番地ノ二二二  
現狀 東海道線神戸驛の西北約四軒、檜川斷層の上部をなすもので一一〇番地ノ三三溝端政吉氏邸の直南に殆んど同邸に接し僅かに軒下をなす小徑を隔て、斷崖に露出する。斷崖の高さ六・五米略三三度の角をなして長さ一二米の斷層線が模式的に露出する。斷層

面の走向は略南北にして北東三三度の傾斜をする。第三紀層は礫岩砂岩粘土褐炭等の互層をなしてゐる。(第廿六圖)(山鳥委員)

[附記]

本物件に對する史蹟名勝天然紀念物保存法による文部大臣の指定要項は左の如し。

神戸丸山衝上斷層

所在地

兵庫縣神戸市林田區長田村字門ノ脇口一里山鳴手

指定地

民有五筆内實測七十七坪八合五勺

説明

花崗岩ガ一大逆斷層ニヨリテ第三紀層ノ上ニ衝キ上ゲ居ルモノナリ六甲山塊ノ構造ヲ示スト同時ニ大阪灣ノ陥没ガ六甲山塊ノ隆起ト相關聯セルコトヲ示セルモノトシテ學術上重要ナリ

指定ノ事由

保存要目天然紀念物中地質鑛物ノ部第一第五及第十三ニ依ル

保存ノ要件

公益上必要已ムヲ得ザル場合ノ外岩石ノ採取及破壊其ノ他現狀ノ變更ハ之ヲ許可セザルコト



# 明石市

## 第一 長林寺の龍燈の松

〔圖版第三一〕

所在 明石市材木町二一長林寺境内



第七廿圖 長林寺附近地形圖  
(圖形地一分萬五)

七米餘に及ぶ一は東南に出で忽にして北に曲り更に分枝する其の根本の周囲二、三米にして同じ

**現状** 山陽線明石驛の西南約八百米に長林寺がある、本堂の西南に一大松樹がある。主幹を高く伸ばさず地上約二米餘の處より二大幹に分かれ水平に分枝して平かに廣がり約三百平方米の地を覆ひ奇觀を呈する。根本の周囲約五米、目通りの周囲約三米である。地上忽にして第一枝を東方に出し略水平に伸びて一七米餘に及ぶ、此故の基部の周囲は約二米である、地上約二米にして西方に小枝を出すも發育不良である其の直上にて二大幹と一小枝とに分かれ二大幹は水平に伸びて多くの枝を出す故に主幹地上僅かに約三米にして止まつてゐる。

く長さ一七米餘に達する。

**由來** 龍王山長林寺略縁起によれば當山は四十二代文武帝の御宇行基菩薩が勅願によつて國々に伽藍建立遊化の砌此浦の長き林に望み暗夜に光明を放つて晝の如く、之に近寄り見給へるに松の梢に七佛の薬師如來出現し給ふ。菩薩歡喜し醫王善逝有縁の靈地なりとし其の坐し給ふ木を以て自ら七佛の尊像を刻み伽藍を建立し醫王山長林寺と號し給ふ。其の後元正帝の靈龜二年此の浦の漁師藤太といふ者或時海中に光明照耀たる所あり、試に網を投げ一體の佛像を得た、然るに海中に龍王現はれ當山道場に守護し來た、時に本尊の寶扉自ら開き内に入らせ給ひ龍王は傍の盤石の上にて消失した、之れ今の三崎明神である。應永年中御領主信仰せられ燈明田を寄附し祈禱怠らず、其の頃境内の古木に龍燈現はれた、爾來之を龍燈の松と稱へた。

播磨鑑に曰く

ニジリ松 本堂の前に有名木也。星霜幾年經けるにや、隨分の老松と見へたり、今は過半枯たり此の寺開基の代より之ある由言傳ふ。享保四年まで凡そ一千年云々と。

之によると享保四年には過半枯れたるものゝ如くであるから、此の松はそれ以後に後繼者を植ゑたるものと思はれる。享保四年は今より二百二十年前であるから此の松は二百餘年のものであらう。(山鳥委員)



# 多可郡

## 第三 荒神社の石櫛

〔圖版第三二〕

所在 多可郡比延庄村下比延字森ノ本一三五九ノ一荒神社境内

現狀 播丹線比延驛の東北約五〇米弱にして荒神社がある。其の境内の里道の直東に位して一本の石櫛の大樹がある。根本



（圖形地一分萬五） 圖形地近附社神荒 圖八廿第



葉の櫛石 圖九廿第

米の周圍五六米樹高三五米である。幹は南に約十度傾斜し地上約四米弱にして太き一枝を南に

の周圍二  
○米弱地  
上約一米  
邊が根莖  
の境をな  
し周圍七  
米餘之よ  
り約一五

出し略水平に伸びて一五米に及ぶ此の枝より上方は多數の枝を出し其の太きものは概して南に水平に出で全樹南側に繁茂してゐる。

由來 由來は明かでないが本社は古より鎮守荒神を祭り境内大樹老木ありしも枯死せるもの多く、獨り本樹は境内一の大木なるを以て「一位の木」と稱し一枝と雖も手折れば神罰ありと稱して大切に保護されて來た。

「いちむがし」石櫛は學名を *Quercus gilva* Blume と稱し本州、四國、九州臺灣に分布する暖地性喬木にしてかゝる寒き地方にかくの如き大樹の存することは珍らしき事で天然紀念物として保護すべきものである。（山鳥委員）

## 第四 川下神社の由縁の松

〔圖版第三三〕

所在 多可郡西脇町西脇字萩ヶ瀬荒内二二五ノ一

現狀 播丹線新西脇驛の西北約五〇〇米杉原川の左岸加古川本流に會せんとする處に黒松の老木があるあまり高くはないが枝を平に伸ばして傘狀に廣がり美觀を呈する。樹下に川下神社なる小祠があつて皇太神を祀る。根本の數十種は土を以て埋め石を以て玉垣を作つて之を保護してある。根本の周圍四米目通三七米高さ一三米約三〇度南に傾斜する。地上二七米の高きよ





圖形地近附社神下川 圖十三第  
(圖形地一分萬五)

り第一枝を南方に出し略水平に伸びて二〇米に達する。之よりく字形に北へ一五度傾斜し地上五米弱にして四枝を出す、三枝は細く一枝は太くして北に向ふ、主幹は忽ちS字形に曲りて伸長する、五、四米の處より東南に枝を出し忽ち南方に曲る。枝の廣がりは南へ二〇米、北へ一六米、東へ一二米、西へも一二米餘にして約六八〇平方米の地面を掩ふてゐる。

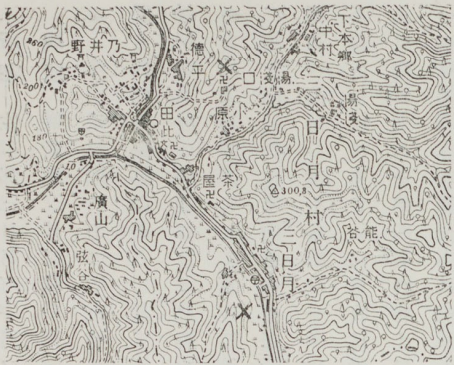
の白雉年間に既に三抱の松があつたと記したものがあるといはれてゐる。故に此の頃に此の地に松の大樹があつて其の後繼者を作つて今日に至つたものらしい、樹齡は三百年以内であると思はれる。往時高砂尾上、曾根、手枕松と並び稱せられたものらしい。(山鳥委員)

由來 由來は明かでないが傳説によれば天武帝

### 佐用郡

### 第五高藏寺の杉

〔圖版第三四〕



圖形地近附町月日三 圖一卅第  
(圖形地一分萬五)

所在 佐用郡三日町字下本郷濟露山高藏寺境内  
現狀 三日月驛の東方約一五軒にして山の中腹に高藏寺がある。山門の磴下の西南小さき古池の側に一本の杉がある。根本の周圍約一二米、根幹の境の邊約七米、目通五、五米、第一枝まで一四米、真直に伸びて高さ三六米に及ぶ、樹勢旺盛にして杉としては太からずと雖も樹相頗る見事なるものである。  
由來 明かでない。(山鳥委員)



## 第六 弓ノ木の棕

〔圖版第三五〕

所在 佐用郡三日月町字弓ノ木

現状 姫新線三日月驛の東南約一・五軒、縣道神戸佐用線の西方に當り田圃の間に一大老棕がある。畦の傾斜地にあつて東側とは約一米の高きを異にするを以て其の根本の周囲は測り難しと雖も西側の基部の高さに於て根本の周囲を測るときは約九米で目通の周囲約七米である。往年暴風の爲幹の西側は枝と共に縦裂して枯死せるを以て其の以前は更に太かりしものと想像される。地上約四米にして東方に第一枝を出す枝は忽ち二又し一枝は東北に向ふ、地上九米にして第二枝を南に出す、此の邊より主幹は東方に傾き略水平の方向に曲り弧狀をなして東方に向ふ、故に樹高は高からずして約一米に過ぎない、若し之が直立すれば主幹の先端は二五米位に達するであらう。枝は主として東方に發育し長きは一四米に達する、全樹の覆ふ地面は約五五平方米に及んでゐる、太き一本の常春藤トクサと二本の紫藤ムラサキトウモロコシとがからみついでゐる。常春藤の太きは八〇糎、紫藤の一本は周囲八〇糎、一本は一・三米の太きものである、之によつても此の棕の古きものなることが察せられる。五六月の交藤の紫の房が一面に垂下して美觀を呈する、冬期落葉中は常春藤の綠葉が目立つて美しい。老棕の西北に二本の粗榧コシがある、其の周囲一株八〇糎、一株は九〇糎に達する。

由來 後鳥羽院隱岐へ御遷幸の際西栗柄の相坂を越へ遊ばされ三日月の東部にある棕の大木に弓をかけて憩ひ給ひ相坂をふり返つて東路で聞いた逢坂と同じ名であると仰せられ、

立ち歸り越へ行く關と思はゞや都に聞きし逢坂の山

と御製遊ばされた。今はたとへ隱岐へ遷されても再び此の相坂を越へて都に還御される日の早からんことを御念願あらせられた事と思ふ。然るに其の事なくして崩御になつたことは思ふだに畏き極みである。此の棕を爾來弓ノ木と言ひ傳へた。

後醍醐帝も北條氏の爲隱岐へ御遷幸の道すがら相坂を越へ三日月鶴林庵に鳳輦を留めさせられし際、弓ノ木を顧み後鳥羽上皇の御製を憶ひ起され御痛はしさに心を曇らせ給ひ、弓ノ木に淋しく懸る三日月をながめて御製遊ばされた。

つたへ聞く昔がたりぞうかりけるその名ふりぬる三日月の森

之より此の森を三日月の森ともいひ數本の榎の繁茂せる森であつたといふ。其の榎はいつか伐採せられ棕のみが残存せるものであるらしい、享保十八年に枯死したので伐採して二代目の棕であるといふ説があるが享保十八年は今より二百年前であるが現存する棕の樹齡は更に古いと思ふ。(山鳥委員)



### 城崎郡

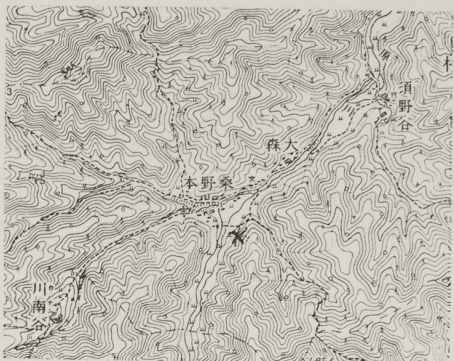
#### 第七 桑原神社の公孫樹

〔圖版第三五〕

所在 城崎郡奥竹野村桑野本字苗原

現狀 山陰線竹野驛より北約一六籽にして奥竹野村字桑野本に達する。途中梅田迄八籽の間乗合自動車の便がある。桑野本に村社にして式内たる桑原神社がある。本殿前其の西北に當り大公孫樹がある。根廻り一二米、目通の周圍八・五米である。根本より六米にして第一枝を西南に向つて伸び八米にして第二枝を同じく西南に出だす、樹高四〇米に達し亭々として碧雲を凌ぎ見事なる發育をなし縣下稀なる公孫樹の巨木である。

由來 明かでない。(山鳥委員)



圖形地近附社神原桑 圖二卅第 (圖形地一分萬五)

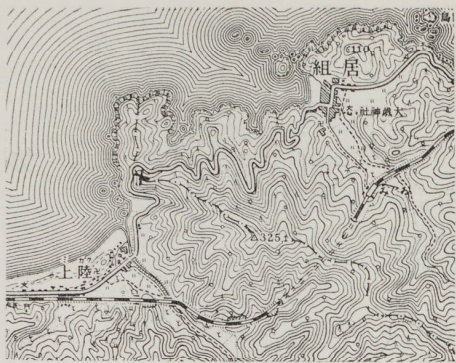
### 美方郡

#### 第八 七坂峠の松

所在 美方郡西濱村字居組七坂峠頂上

現狀 山陰線居組驛の西方約四籽、七坂峠頂上、鳥取に通ずる縣道の上方約一〇米で鳥取縣との境に當り黒松の大樹がある。根本周圍約一六米、根莖の境約六・五米之より目通の周圍約五米、高さ二四米である。地上約四米にして略同大の東西二幹に分かれる。此の邊最も太く周圍七米に餘る。此處より第一枝を南に出し之より上部は四方に枝を出す、南北三〇米、東西三一米に枝を廣げて地上を掩ふ、樹勢旺盛見事なる發育振を呈してゐる。

由來 明かでない。(山鳥委員)



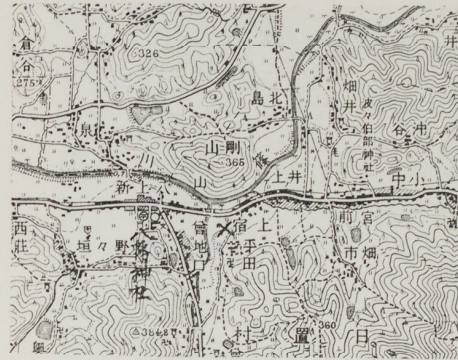
圖形地近附峠坂七 圖三卅第 (圖形地一分萬五)



# 多紀郡

## 第九 日置村の六本柳

所在 多紀郡日置村字上宿字柳ノ坪



圖形地近附村置日 圖四卅第  
(圖形地一分萬五)

**現狀** 福知山線篠山驛の東方約八軒篠山より京都府園部に通ずる國道の南側にあり、現時篠山園部間の省線バスを通じ丹波日置驛より東へ八〇〇米の處にある。[よしのやなぎ]と稱する柳にして根本の周圍四・八米目通の周圍三七米で主幹は柳としては甚だ太しと雖も三五米の高さにて主幹の伸長は妨げられて二大枝に分かれ各は更に二大枝に分れる。其の二大枝に分る、下方高さ二・七米の邊にて最大の太さとなり四・八米の周圍を有する、主幹は一大空洞となる柳には心材なきを以て空洞を生じ易い、枝の最も高きものは地上一三米に達する。

**由來** 傳説に曰ふ、昔源頼光が大江山の鬼退治の途次此地を通過の砌家來の渡邊綱坂田金時占部季武確水定光平井保昌の五名と共に柳の杖を路傍に

挿せしに活着成長せしものにして之を六本柳と稱したりしが他の五本はいつしか枯死して只一本の残りしものであると。(山鳥委員)

## 第一〇 福住の大杉

所在 多紀郡福住村字安田甚七森村社住吉神社境外所有地



圖形地近附住福 圖五卅第  
(圖形地一分萬五)

**現狀** 福知山線篠山驛の東方一二軒篠山園部間國道の直南傾斜地にある省營バス福住驛の西約五〇〇米にある。杉は斜面に生ずるを以て北側と南側と高きを異にし従つて根本の周圍は測定し難い、目通の周圍七・五米で此の邊に注連繩を張つてある。高さ三・二米の邊より南に一大枝を出すも之より以上は主幹は真直にして略同じ太さを有し見事なる觀を呈する。約一〇米邊より以上は多數の枝を出し其の發育状態佳良である、枝の延長は南へ二・一米、北へ一・八米、東へ一・三米、西へ一・二米の範圍に枝を出し約八〇〇平方米の地面を掩ひ樹高三・二米樹勢頗る佳良で天然紀念物として保護するの價値充分である。

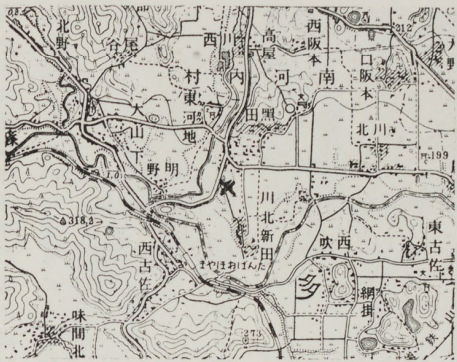


由來 由來は明かでないが傳説によれば此の地は元住吉神社の境内にありしものなるが神社を現在の處に移轉してより此の地を境外地として今に至り當時の大杉が保存せられしもので、里人神木として尊崇し注連を張つてゐる樹齡千年を越ゆるものと惟はれる。(山鳥委員)

### 第一 南河内の櫛

所在 多紀郡南河内村字黒田<sup>す</sup>原

現狀 福知山線丹波大山驛の東北約一軒、縣道神戸豊岡線の東約五〇歩に田圃の間に一老櫛がある。根本の周圍八米、地上約一米にして略同大の三大幹に分かれ、此の分岐點の直下地上約六〇<sup>〇</sup>糎の周圍七米である。三大幹の一は東方に向ひ其の根本の周圍四・八米、一は西南に出で其の根本の周圍四・二米、一は北方に伸び其の根本の周圍四・四米である。東方の枝は忽ち三大枝に分かれ、西南枝も亦忽ち三大枝に分るゝも一は枯死して其の基部のみを存してゐる北枝も亦三大枝に分れる。之等の枝の伸長は東枝は一四・三米、西南枝は一三米、北枝は一三・三米に及んでゐる。

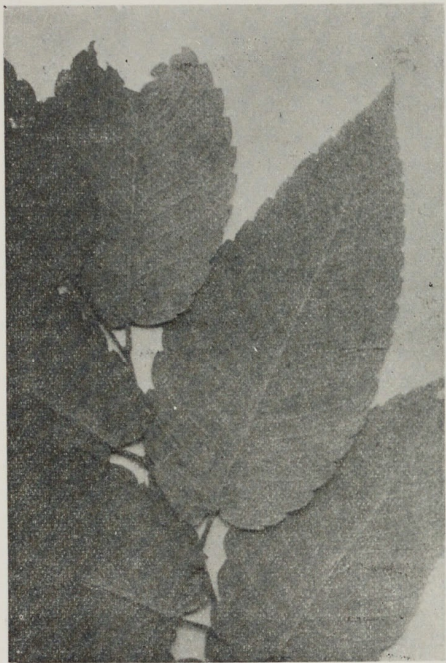


圖形地近附村内河内 圖六卅第  
(圖形地一分萬五)

る。かく三大幹は各三枝に分岐して恰も枝が蛸脚狀に廣がつてゐる、全樹約五畝歩の地面を掩ふてゐる大樹である。枝葉よく繁茂し葉の長さ一四糎に及ぶ大形のものである。東枝の中央に主幹らしきものがあつて中空をなしくよく人を容るゝに足りる。樹高一八米で幹が多數に分岐するから高くはないが其の太さより察するに樹齡頗る古い。

由來 丹波大山驛より此の地に

至る途中に篠山川を渡れば右側に少將山といふ臺地がある。丹波少將成住といふもの鎌倉時代に此の地に館を作り居住し其の馬場の端に櫛を植ゑしが残つたものであると傳へられてゐる。其の後南北朝の頃其の子孫顯經に至り南朝に仕へ此の地を去るに際し琵琶及琴を



(左)櫛の内河内 圖七卅第

すてたりといはれてゐる。少將山の西方笹山川に琴ノ浦があつて今小瀧橋が架してある。元の篠山川のあと、稱へられてゐる琵琶ヶ淵に琵琶橋が架してある。大櫛のある處より東北は田圃となつてゐるが之が馬場田ノ坪といつてゐる、之等の事實から推して此の大櫛の由來が想像し得ら



れる。(山鳥委員)

### 第二二 小金ヶ嶽の石南

所在 多紀郡草山村川坂、小金ヶ嶽の北側



圖形地近附嶽ケ金小 圖八卅第  
(圖形地一分萬五)

**現狀** 福知山線篠山驛の東北一二軒、篠山町驛より八軒にして畑村と草山村との境に小金ヶ嶽がある。近時多紀アルプスと稱へハイキングコースの一となつてゐる。山は古生代の角岩より成り高さ六七〇米である。畑村字火打岩村より登れば山巔近き處は角岩の露出せる上を匍匐して登り、頂上より角岩の角立てる上を傳ひて少しく下れば其の東北側草山村の側に鬱蒼たる混雑林がある。其の中に石南を散生する。下草として羊齒類「はかぢみ」いはうちは等叢生し「あをふたばらん」つくばねさう等が散生する處石南の幼苗が頗る多い。

此の山の石南は「くしやくくなげ」(Rhododendron Metternichii Sieb. et Zucc.)にして岐阜縣を以て東限とするものゝやうである。小金ヶ嶽は兵庫縣に於ける此の

植物最東限地である。里人の語る處によれば從來此の地には石南饒産せるも年々阪神地方より入り來つて枝條を伐採し、或は生木を引きとり年と共に減少し來つた。故に老幹の存するものありと雖も現時は其の景觀甚しく貧弱となつてゐるのは遺憾である。(山鳥委員)



津名郡

第一三 伊弉諾神社の樟

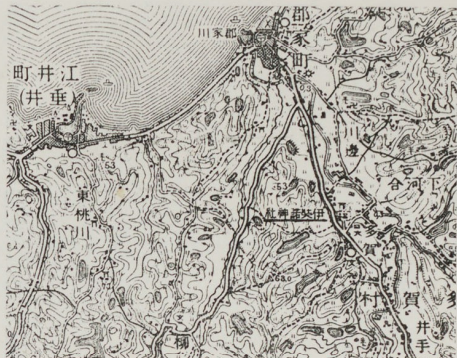
〔圖版第三七〕

所在 津名郡多賀村宇多賀伊弉諾神社境内

現状 伊弉諾神社本殿の東岩楠神社の側にあり。根本の周囲一四・五米、根幹の境約十米、目通の周囲七・八米である。地上北側は一・五米、南側は一米の邊にて東西の二大幹に分岐する。分岐せる處の太さは東幹は三・八米にして分岐後暫にして東南に傾く、西幹は周囲六米にして略直立する。樹高三六米に達し樹勢旺盛、洲本八幡神社に於けるものと共に淡路に於ける二大樟樹である。

由來 岩楠神社は蛭兒神を祀り創建年代不詳であるが攝社楠御前と稱し往古より鎮座あり儲子安産の神として崇敬した。世俗に子生樹として信仰し子なきものは祈願

(山鳥委員)



圖形地近附社神諾伊 圖九卅第 (圖形地一分萬五)

すれば瑞驗があると傳へられてゐる。

圖版





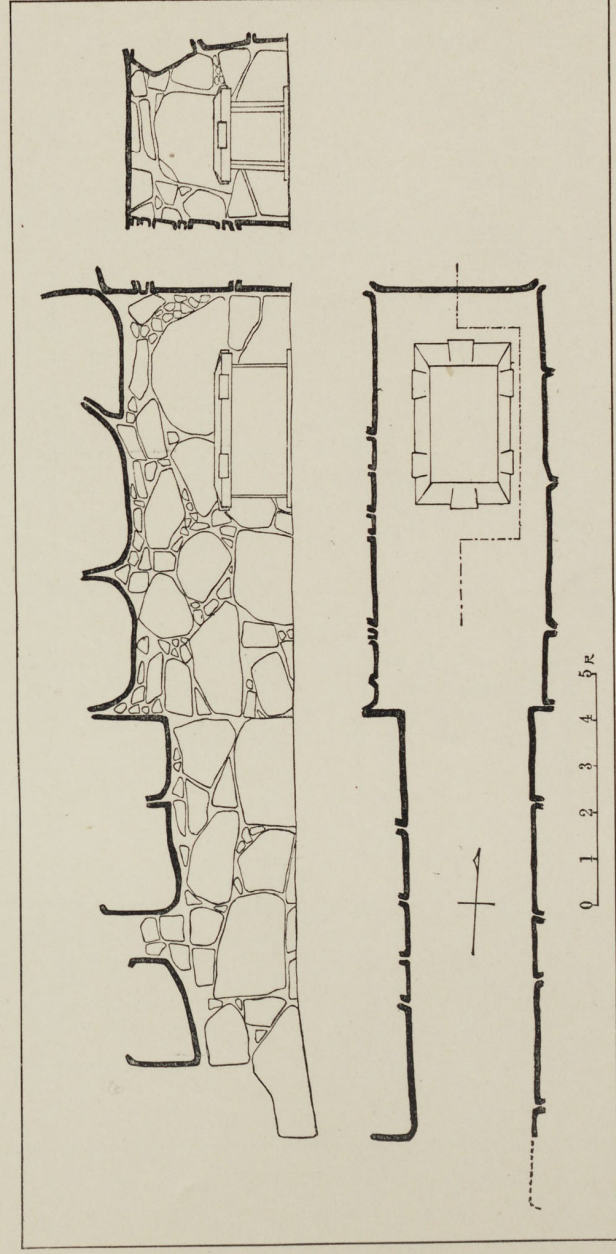
(上) 御興塚外形  
(下) 支室と遺存の石棺





(武藏測圖)

御塚古墳石室實測圖





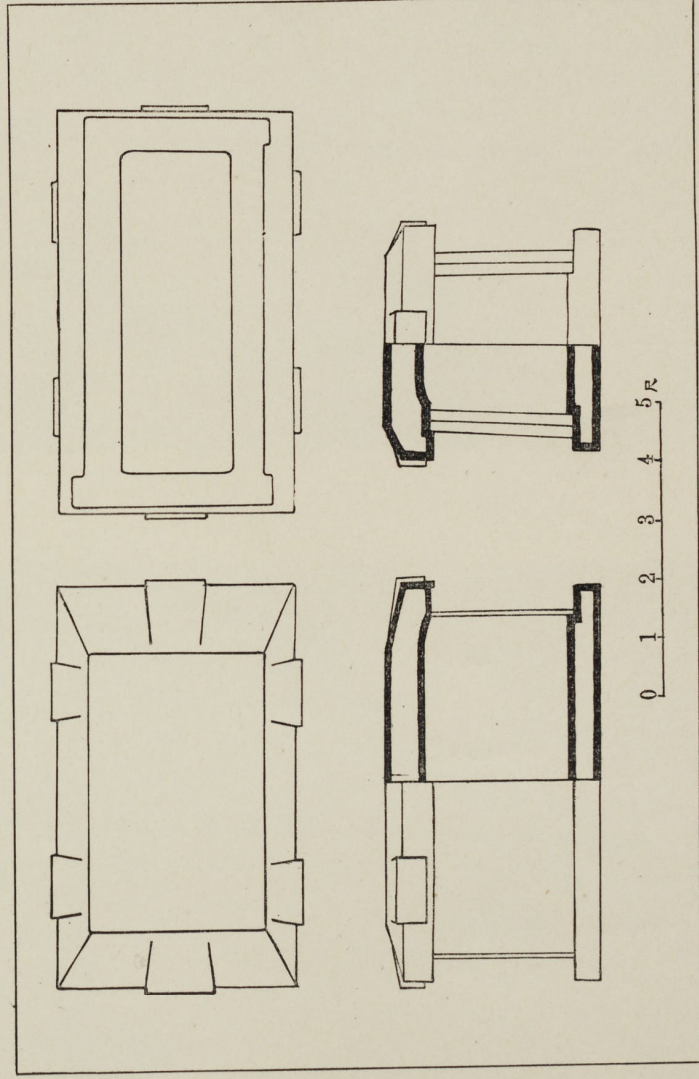
(三三三)

御興塚古墳石棺實測圖



御興塚古墳石棺實測圖

(武藤測圖)



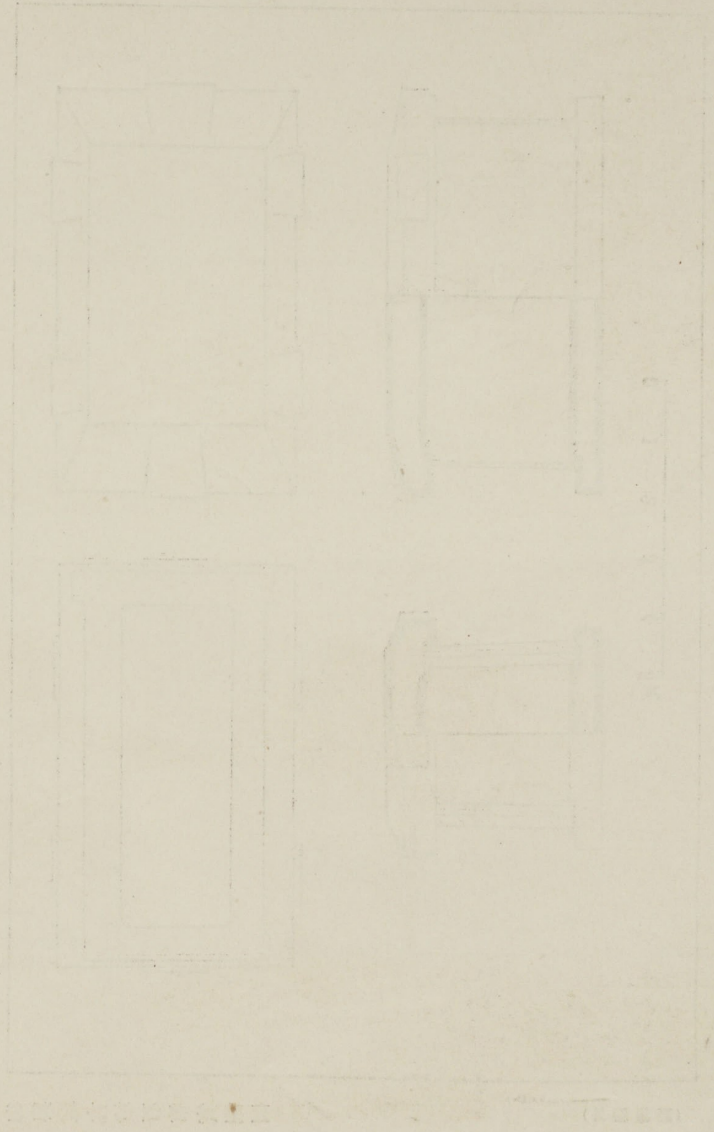




(一) 東方より見た古墳の残存状態

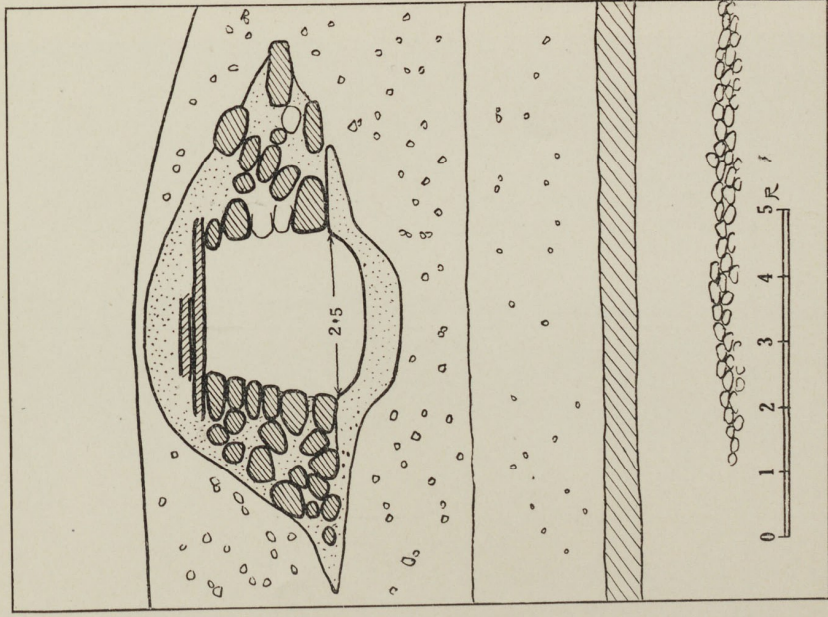


(二) 現存封土の示す切断面

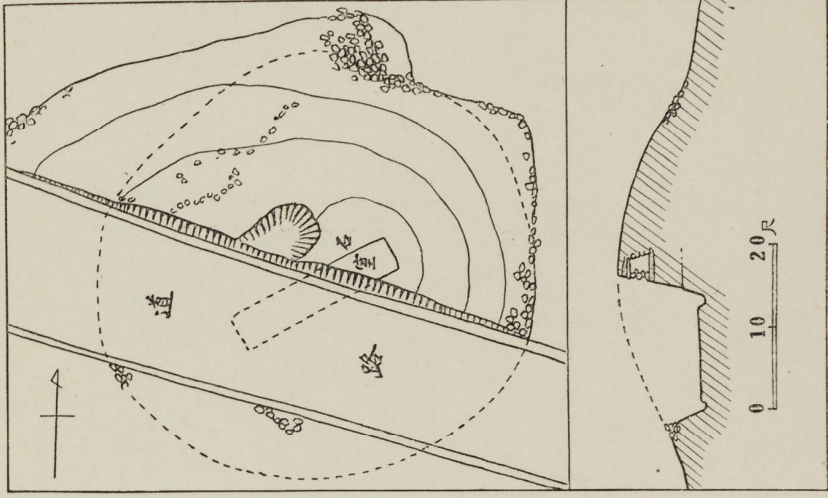




(梅原委員製圖)



(一) 小瀨村赤鳥七年鏡出土古墳石室斷面略圖



(二) 小瀨村赤鳥七年鏡出土古墳外形略圖

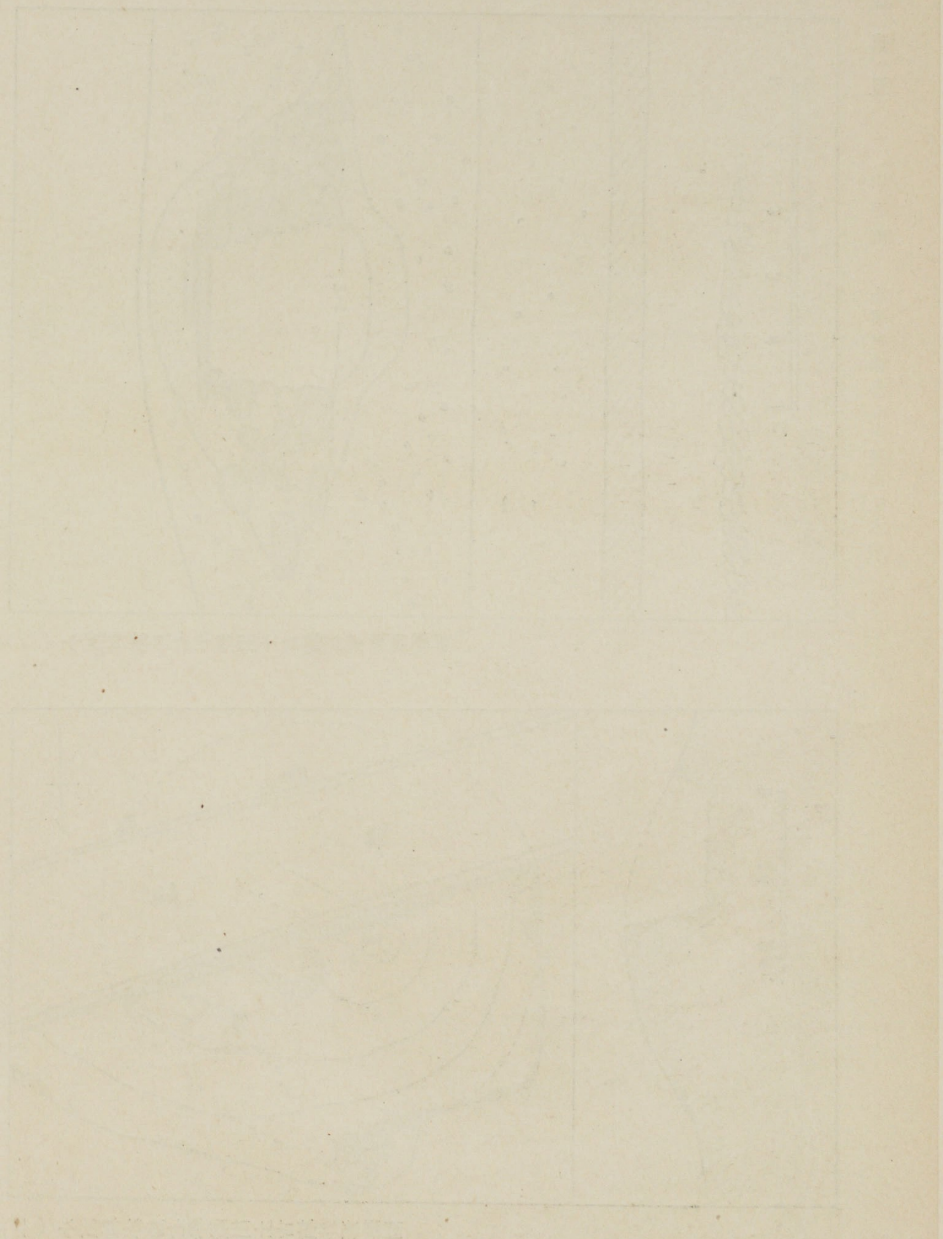




(一) 封土に於ける残存石室の位置



(二) 残存の堅穴式石室







(一) 吳赤烏七年半圓方形帶神獸鏡 徑五寸六分

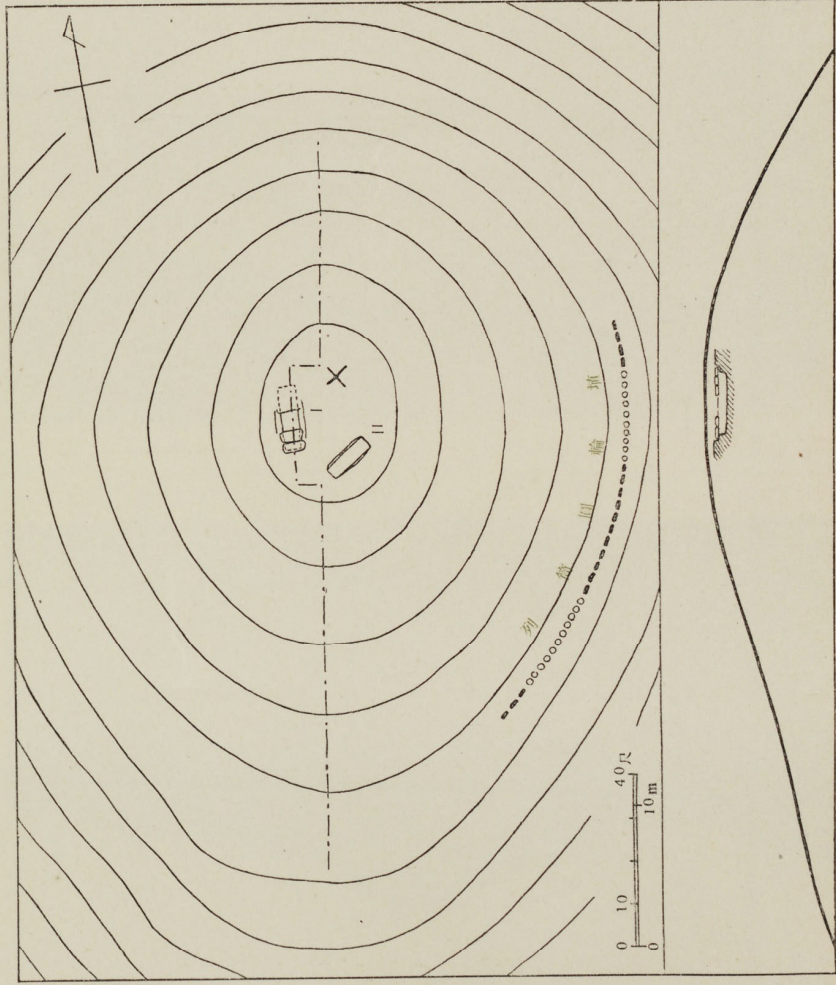


(二) 內行花紋鏡及玉類 鏡徑三寸六分



(梅原委員製圖)

龜山山頂古墳外形略圖







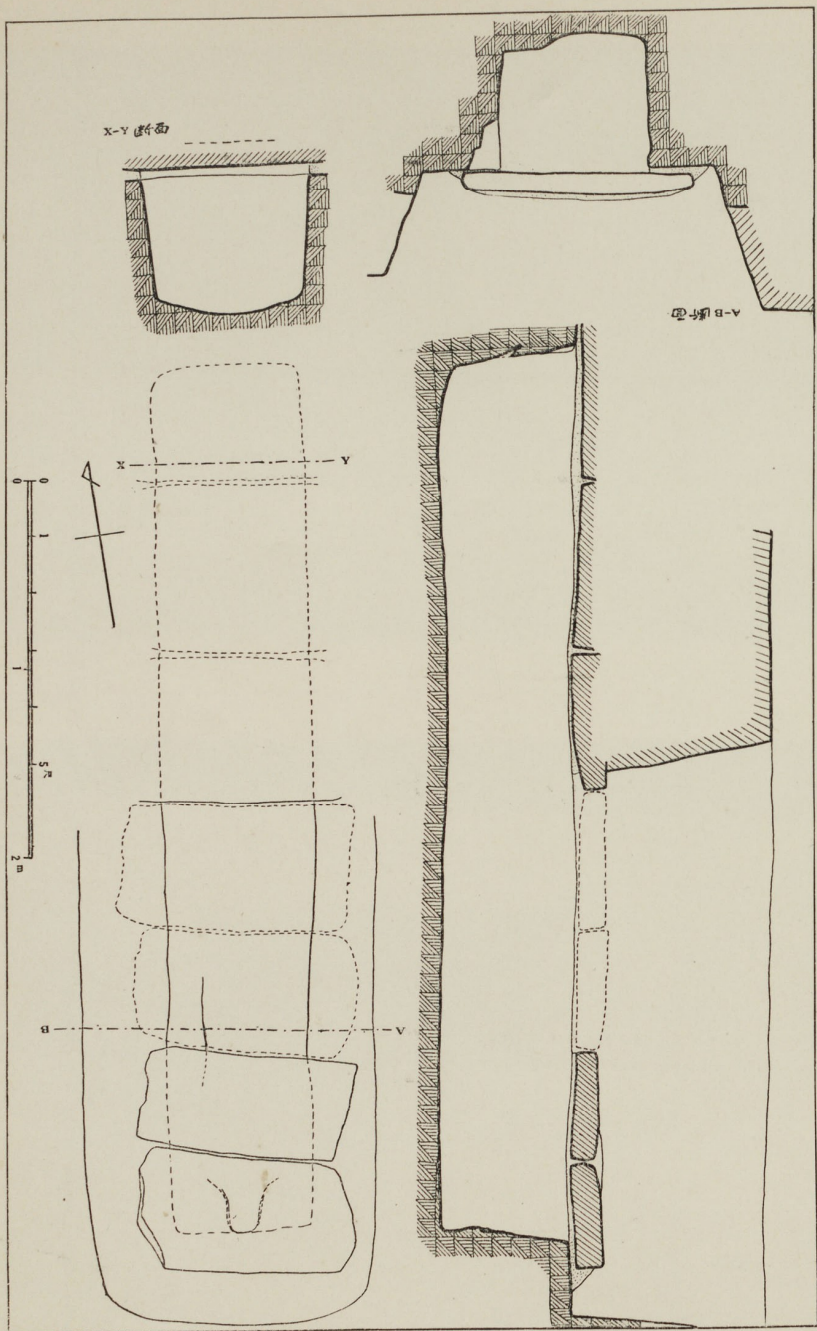
(一) 逆池を距て、南方よりの龜山全景



(二) 龜山山頂に掘り出された堅穴(前方が第一石室)



第一號室(堅穴)實測圖



(梅原委員實測圖)

圖版第一〇 (加西郡 龜山古墳)





(一) 第一號室(竪穴)全景 (西方上部より)



(二) 第一號室(竪穴)南半部



(一) 第一號室(經穴)俯瞰景 (東方より)



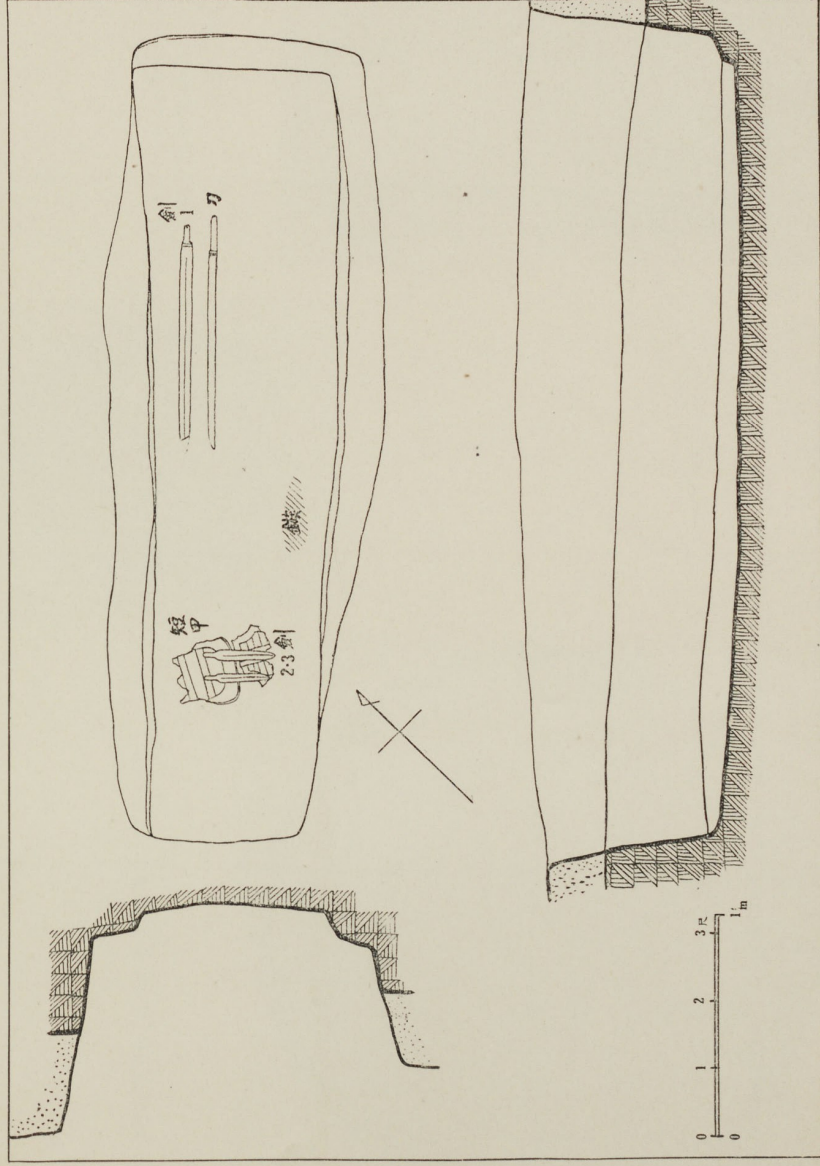
(二) 第二號室(經穴)全景 (南方より)





第二號室(盛穴)實測圖

(梅原委員實測圖)







(上) 第一號室發見半圓方形帶神獸鏡

徑四寸八分

(中) 乳紋小鏡

徑二寸一分



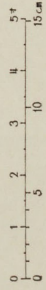
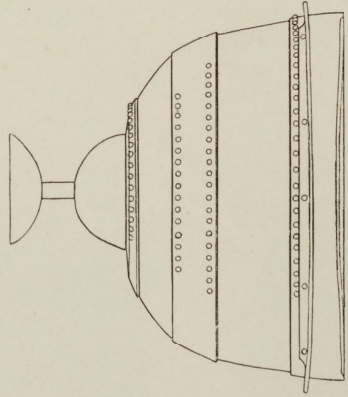
(下) 第一號室發見小札  
(草摺の一部か)



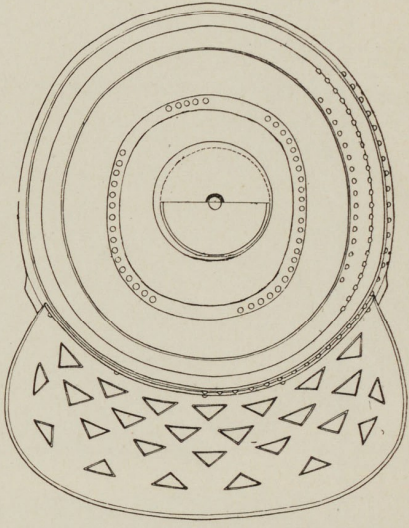
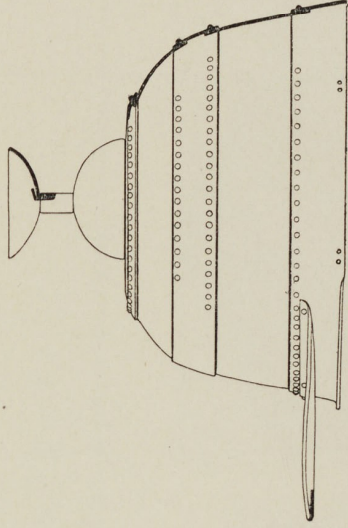
第一號室發見鐵製橫刻板銀留眉庇附兜







第一號室(堅穴)檢見  
鐵製橫板釘留肩  
此附兜實測圖  
(小休行雜岩實測製圖)





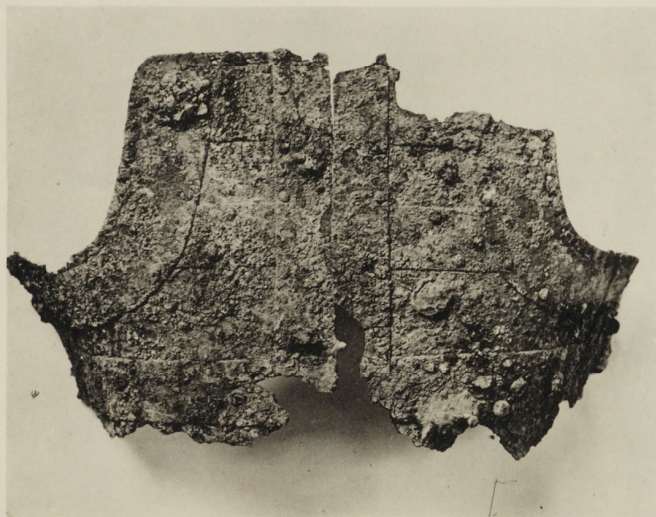


第一號室發見橫矧板鈺留短甲

(上前胸 下後胸 上肩 右側面)

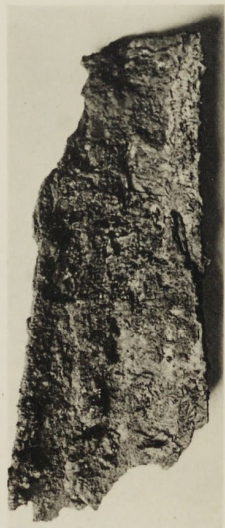






(一) 第二號室發見短甲 (上 後側 下 前側)

(二) 第一號室發見  
籠手殘缺  
(上表 下裏)





圖版第一九

(加西郡 龜山古墳)



龜山古墳發見刀劍身及鎗身

(右九口第一號室發見 左四口第二號墳發見)





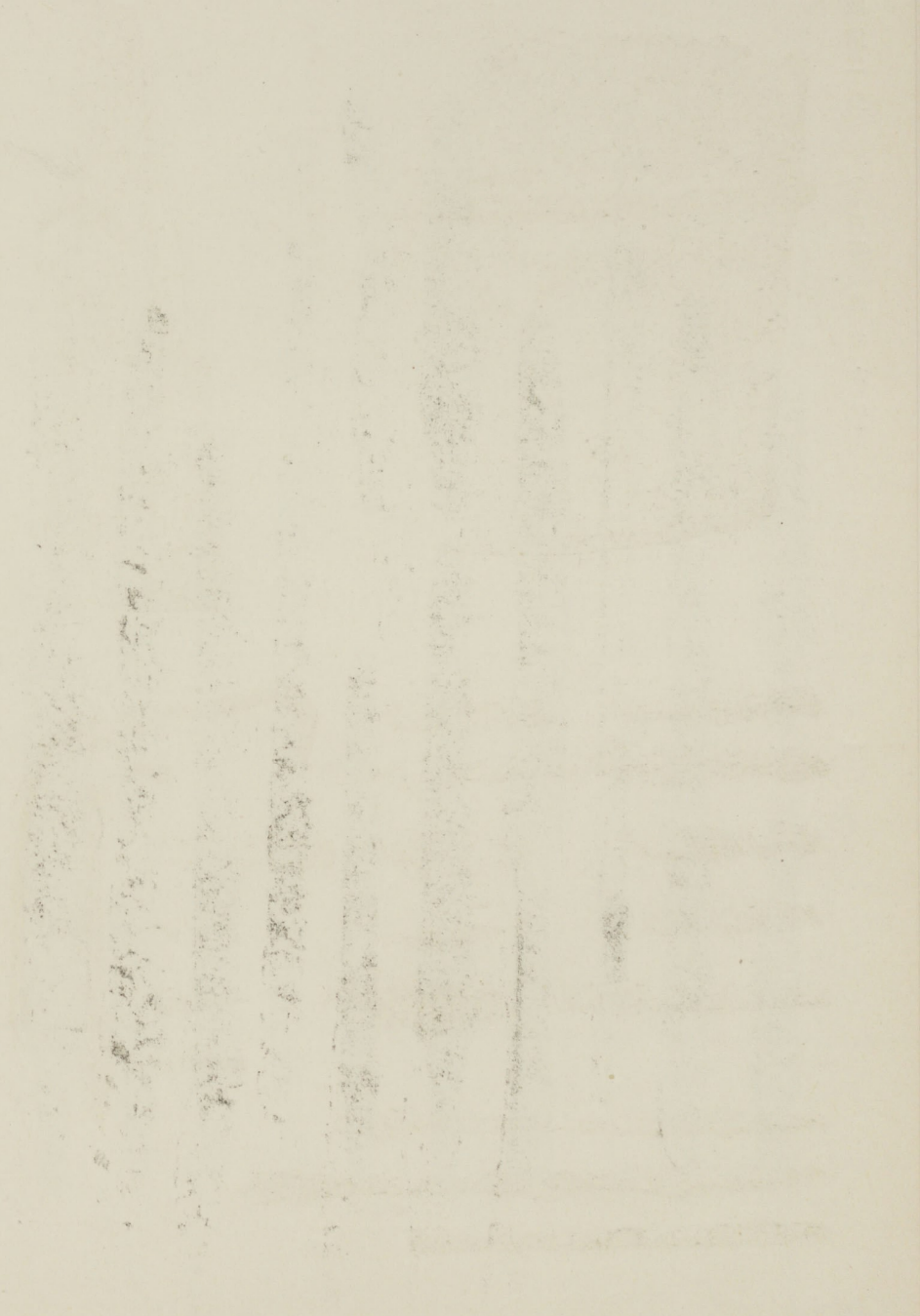
(一) 龜山古墳發見埴輪筒片



(二) 第一號室發見劍(2)拵細部



(三) 龜山古墳發見鐵鏃及金具類







(一) 塔 趾 遠 望

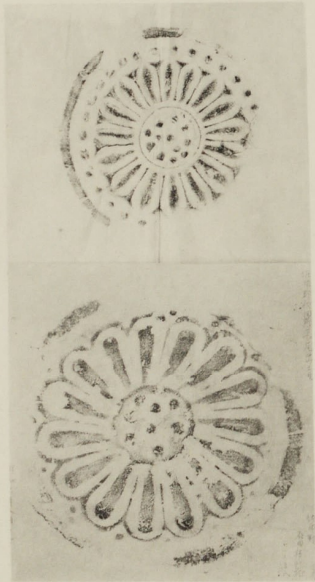


(二) 塔 趾 心 礎 遺 存 狀 況 舊 態

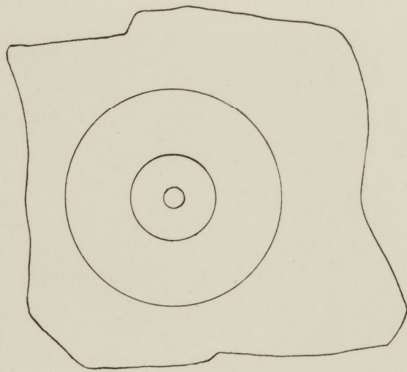




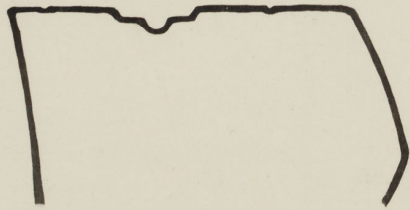
(一) 塔 趾 心 礎



(三) 出土遺瓦拓影 (上、佐用農登學校 下、石田正造氏所藏)



(二) 心 礎 實 測 圖



(武藤測圖)

0 1 2 3尺



圖版第二三

(佐用郡 長尾廢寺跡)



(一) 出土遺瓦

(佐用農草學校所藏)



(二) 殘存礎石の一





(一) 進美寺山遠望

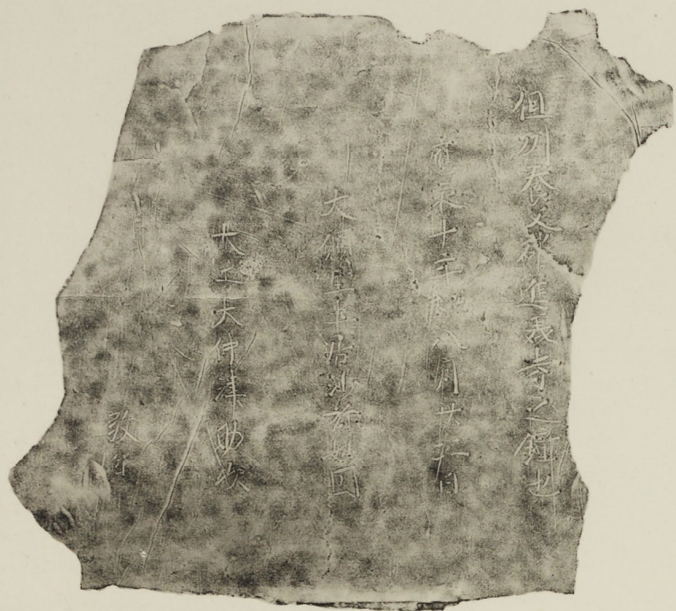


(二) 進美寺山中腹より日高町附近の平野を望む









(一) 鐘銘拓本



(二) 鏡

口 (明德三年在銘)

(進美寺本堂所懸)







(上) 賣布神社々號石標  
(下) 多太神社々號石標





(一) 鷹取山より觀たる丸山盆地



(二) 門ノ脇斷層





(二) 野 上 斷 崖



(一) 川 斷 崖





(一) 口一里山斷層



(二) 鳴手斷層





(一) 龍燈の松全形

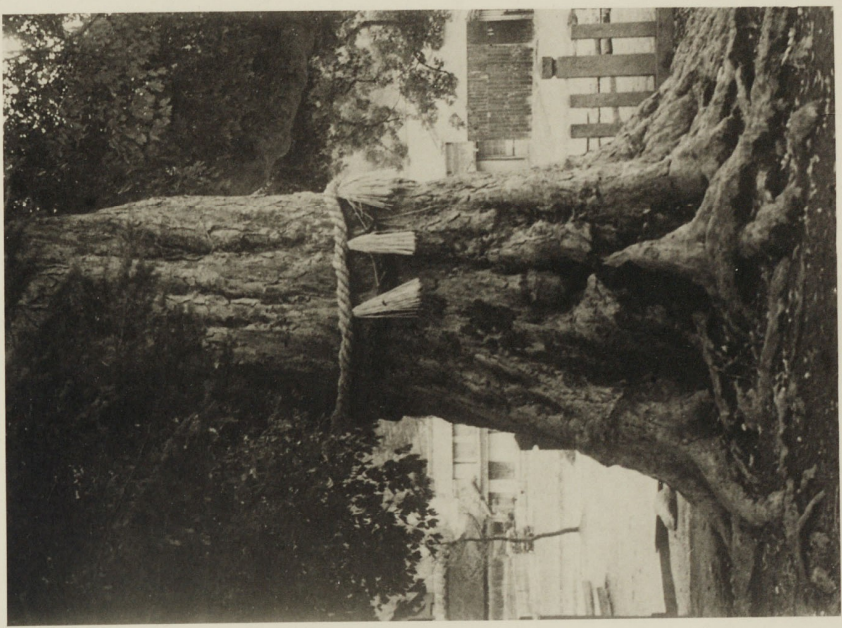


(二) 龍燈の松根幹部





(一) 石櫛全形



(二) 石櫛根幹部





(上) 由縁松 全形  
(下) 同 右 根幹部



圖版第三四

(佐用郡 高藏寺の杉)



高藏寺の杉

高藏寺の杉



圖版三五

(佐用郡 弓ノ木の椋  
・城崎郡 桑原神社の公孫樹)



(上) 弓ノ木の椋全形  
(下) 桑原神社の公孫樹





(一) 南河内の櫟全形



(二) 南河内の櫟根幹部





伊弉諾神社の樟



18000

昭和十四年三月二十五日印刷  
昭和十四年三月三十日發行

# 兵 庫 縣

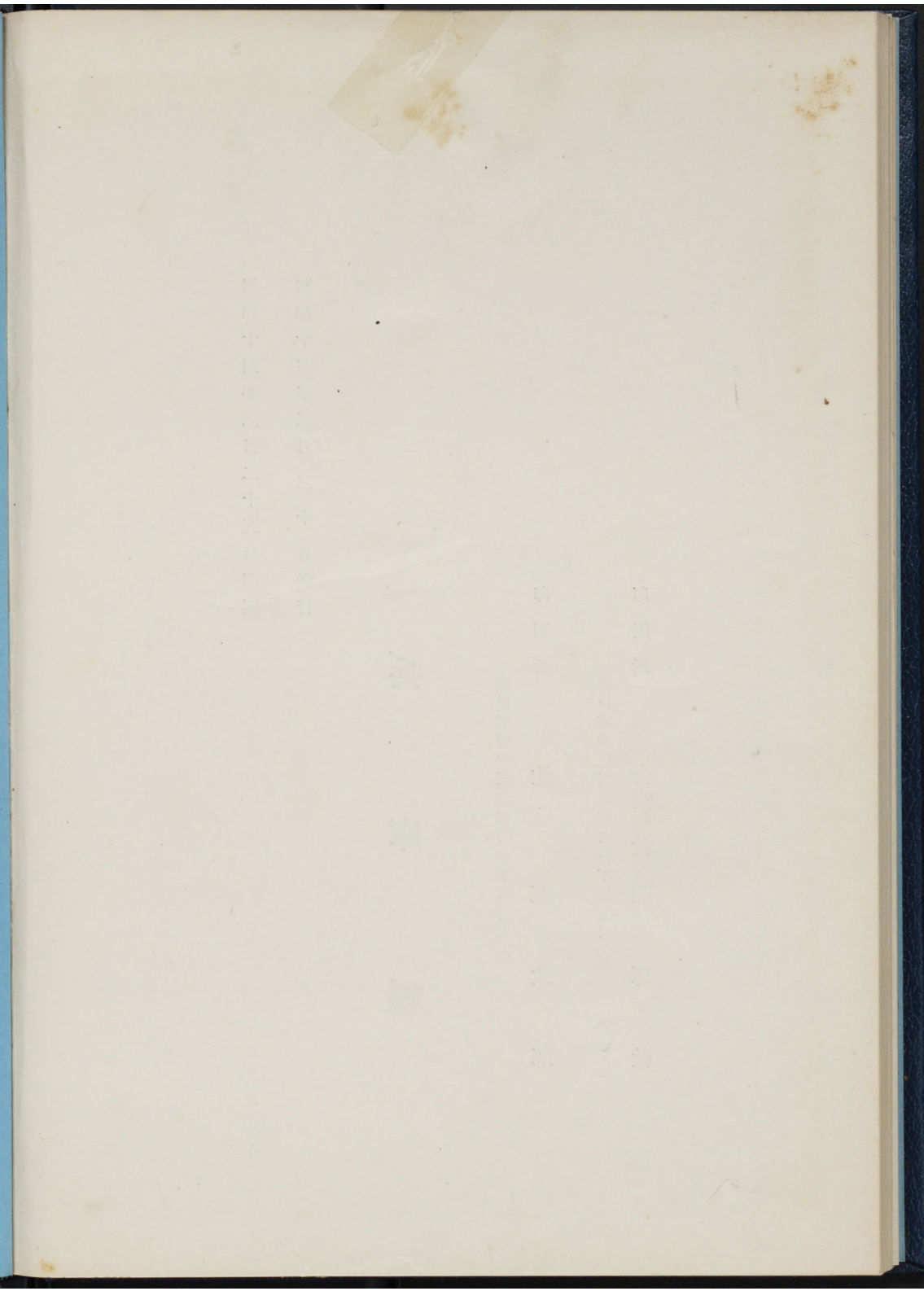
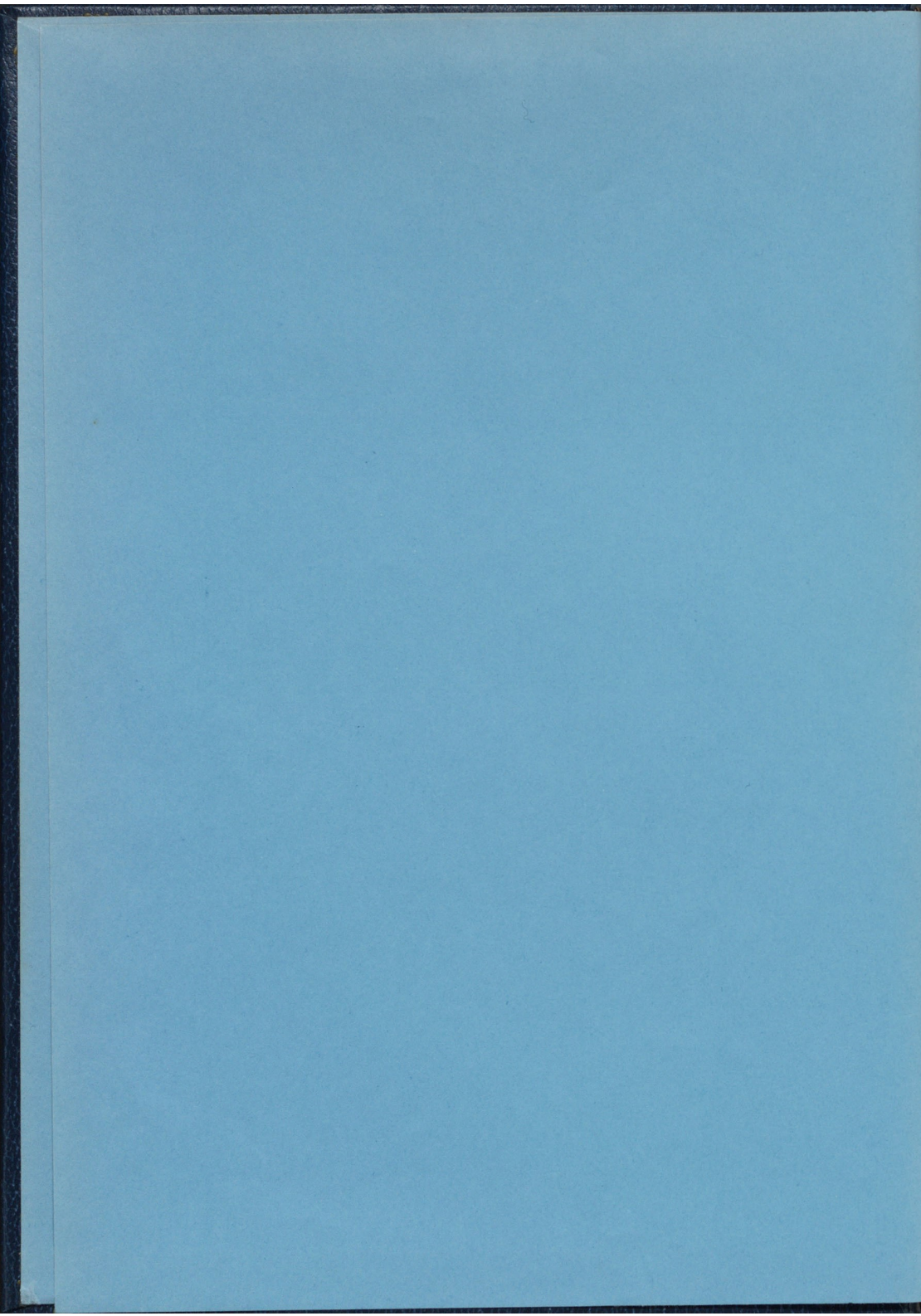
神戸市神戸區三宮町一丁目三二〇

印刷者 辻 左 武 郎

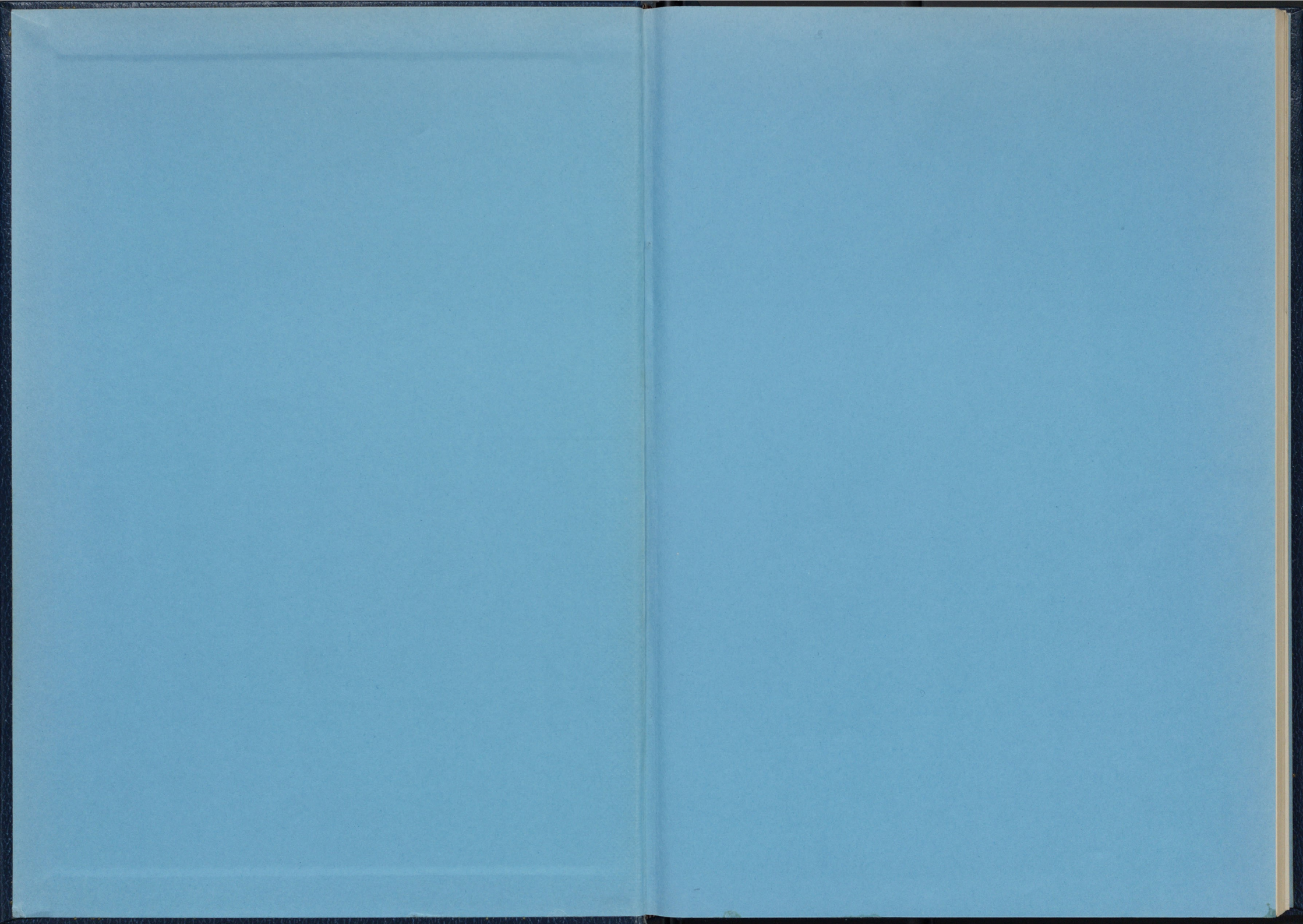
印刷所 合資會社 明 輝 社

壹八五











兵庫県立図書館  
☎ 078-918-3366



101563070